



そらあい2025

空を愛する女性たちを励ます賞

空港を支える女性たち



*Japan
Women's
Aviation
Association*

一般社団法人 日本女性航空協会



『そらあい2025』 空を愛する女性たちを励ます賞に寄せて

「空を愛する女性たちのネットワーク」—それが私たち日本女性航空協会の合言葉です。空を舞台に活躍し、航空輸送の安全に貢献し、空の旅を楽しみ、また自ら操縦する喜びを知るすべての女性たちとつながり、応援する存在でありたいと願っています。

1997年に始まった「空を愛する女性たちを励ます賞（通称：そらあい）」は、これまで12回にわたり、航空業界や研究機関、公的機関で活躍する女性パイオニアを表彰し、女性の活躍が当たり前となる社会の実現に向けて発信してきました。

21世紀も四半世紀を迎え、空の世界での女性の活躍は定着しつつあります。しかし、少子化による人材不足が深刻化する中、より多くの女性に航空業界へ飛び込んでほしい、そして長くキャリアを築いてほしいという思いは、業界全体に共通しています。

今年開催します『そらあい 2025』のテーマは「空港を支える女性たち」。航空輸送の基盤を担う女性たちにスポットを当て、これまであまり知られていなかった業務を紹介することで、航空業界の魅力を広くお伝えできればと期待しています。

空を愛する女性たちは、出産や育児といったライフステージとキャリアの両立に悩みながらも、工夫を重ね、自らの道を切り拓いています。そんな女性たちの挑戦と努力に、ぜひ温かい応援をお願いいたします。

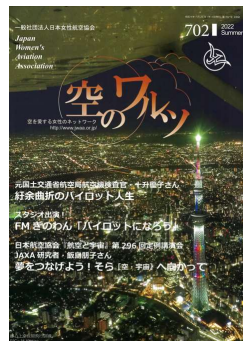
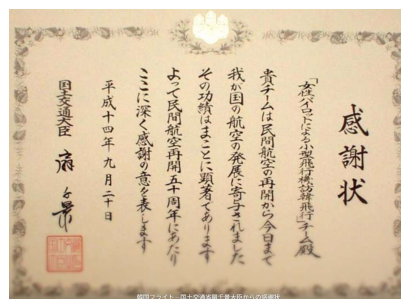
一般社団法人 日本女性航空協会
理事長 浦松香津子

一般社団法人日本女性航空協会沿革

- 1952 年 5 月 社団法人日本婦人航空協会創立
柳田美代子初代理事長、麻生和子会長就任
- 1952 年 6 月 国際婦人航空協会 日本支部設立
- 1952 年 11 月 月間「婦人航空」発刊
- 1953 年 9 月 ソアリングクラブ結成、萩原式 H-22 型滑空機購入、
藤沢飛行場にて練習開始
- 1954 年 3 月 遺族招待飛行事業開始、各地で 32 回の招待飛行
を実施
- 1954 年 5 月 第 2 代西原小まつ理事長就任
- 1959 年 9 月 トーキョー・フライングクラブ結成、小型飛行機操縦
練習開始
- 1967 年 5 月 第 3 代及位（のぞき）ヤエ理事長就任
- 1976 年 7 月 99' 日本支部結成承認
- 1994 年 9 月 及位理事長 FAI よりポール・ティサンディエ賞受賞
- 1995 年 12 月 第 4 代北野蓉子理事長就任、機関紙名称を
「空のワルツ」へ改名
- 1997 年 11 月 第 1 回「空を愛する女性たちを励ます賞」表彰式開催
- 2000 年 6 月 「日本女性航空協会」へ名称変更
- 2002 年 4 月 創立 50 周年記念小型機による韓国訪問飛行
- 2002 年 9 月 空の日表彰にて扇千景国土交通大臣より感謝状授受
- 2009 年 5 月 第 5 代鐘尾みや子理事長就任
- 2014 年 4 月 公益法人制度改革により一般社団法人へ移行
- 2017 年 3 月 女性航空教室共催（現在まで継続中）
- 2022 年 10 月 創立 70 年記念オンラインシンポジウム
「航空業界の扉を開いた女性たち」開催
- 2024 年 5 月 第 6 代浦松香津子理事長就任
- 2025 年 11 月 そらあい 2025「空を愛する女性たちを励ます賞」開催



写真で見るJWAAの歴史 1952年～



空港消防職員

一般財団法人 航空保安協会



利用者の安全を守る

空港消防は、国内の主要空港およびその周辺地域において、航空機事故などの緊急事態が発生した際に、消火・救難活動を担っています。

東京国際空港は、面積 1,516 ヘクタールを誇る日本最大の空港で、世界でも 5 番目に利用者数が多い活気ある空港です。航空機事故が発生した場合、国際基準に基づき、3 分以内に現場へ到着し、消火・救難活動を開始することが求められます。

そのため、現場ではさまざまな特殊車両が配備されています。大型化学消防車をはじめ、消防車両に水を補給する給水車、救助活動に必要な資器材を積載・夜間の活動に欠かせない照明を提供する救難照明車などが整備されています。

さらに、事故発生時には救護所の設置や医療資器材の搬送、傷病者の搬送に対応する救急医療資器材搬送車も活躍します。

万一の航空機緊急事態出動のため、日々訓練

迅速かつ的確な対応を行うため、消防のスキルに加え、大型・けん引車両の運転技術、空港の特性、航空機の構造等、幅広い技能・知識が必要です。また、過酷な災害現場に対応できるよう、体力錬成にも力を入れ、いついかなる時でも出動できる体制を整えています。

大切にしていること

現場で活動する際、お互いに命を預けているため、小さなミスにより息が合わないだけでケガにつながります。勤務の日は必ず同じ車両に乗るバディーを気にかけて、先のことを見越して考えるよう、日頃から心がけています。

航空保安協会では、各種教育、資格取得費用補助等、人材育成制度が充実しているため未経験であっても、安心して業務に就くことができます。

グランドハンドリング

株式会社 JAL グランドサービス



グランドハンドリングは航空機の運航に欠かせないプロフェッショナルな仕事

グランドハンドリング(通称グラハン)の業務は多岐にわたりますが、航空機の安全な移動を担う誘導スタッフの主な役割は、マーシャリング、トーイングそしてプッシュバックの3つです。

着陸した航空機は自走でスポットへ向かい、マーシャラーがオレンジ色のパドルで停止位置まで誘導します。航空機を正確な位置に停止させることは非常に重要で、停止位置がずれると、ボーディングブリッジが正しく接続できず、乗客の乗降に支障をきたします。そのため、パイロットはマーシャラーの合図に細心の注意を払って従います。航空機が無事に停止すると、マーシャラーは軽くお辞儀をし、パイロットも笑顔で応えることがあります。そんな瞬間には、互いの信頼と敬意が感じられます。

また、トーイングは航空機を別のスポットや格納庫へ移動させる作業、プッシュバックは誘導路まで押し出す作業で、航空機の安全な運航を支える重要な業務です。

搭載業務は、グランドハンドリングの核となるポジション

航空機がスポットに到着すると、地上スタッフが一斉に動き出します。貨物室からコンテナが次々と運び出され、小型のトーイングトレーラーが複数のコンテナを引いて走り去ります。すぐに次のフライトへの準備が始まり、乗客の搭乗を終えると、コックピットからのプッシュバックの連絡を受けて出発となります。巨大な航空機の地上作業は、スタッフの緻密な連携と高い技術によって支えられています。

グラハン女子が大活躍

グランドハンドリング業務には多くの専門資格が必要で、入社後は研修を重ねながら一つずつ取得していきます。

JAL グランドサービスでは、子育て中のスタッフによる「ママさんチーム」も活躍中。ライフステージに合わせてスキルとキャリアを両立させながら、日々の業務に真摯に取り組んでいます。

航空管制運航情報官

国土交通省航空局



航空機の安全な運航を支える

『情報のスペシャリスト』

国土交通省航空局は、航空機が安全な運航を実現できるよう、日々様々な業務を行っています。「航空管制運航情報官」は、パイロットが安心して運航できるよう、『情報のスペシャリスト』として、次の広範な業務を行っています。

- ①空港への離着陸や飛行中の航空機に対して、安全運航に必要となる空港の運用状況や周辺飛行中の航空機、気象情報などを無線電話により提供する対空援助業務
- ②飛行中の航空機を監視し、行方不明や不時着するような航空機が発生した場合、全国の空港や管制機関から各種情報を収集、防衛省や海上保安庁などの関係省庁、国際捜索救難機関とも連携して航空機の捜索及び搭乗者の救助を行う捜索救難業務
- ③滑走路や誘導路の安全確保のための点検や

工事作業の実施に係る調整、駐機場所の割り当て調整などを行う飛行場情報業務

④日本に乗り入れている外国航空機への安全基準を満たしているか検査を行う運航援助情報業務

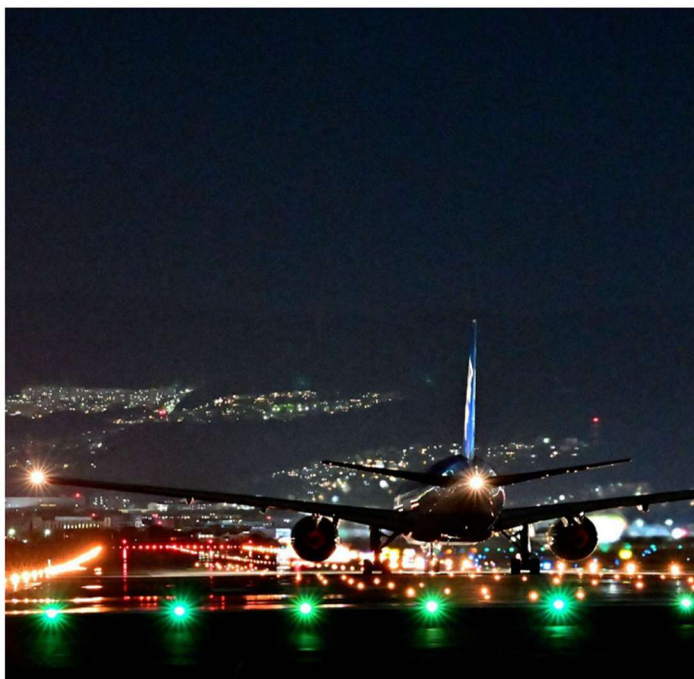
女性進出が進んでいる職業

航空管制運航情報官として働くためには、関西国際空港に隣接して設置されている「国土交通省航空保安大学校 航空情報科」に入校し、2年間の研修により必要な技能証明を取得する必要があります。その後、全国の空港や地方航空局、国土交通省航空局に配置され、キャリアパスを積み上げていくこととなります。

同校航空情報科の女性入校者は近年5割を超え、女性進出が進んでいる職業であり、育児休業を取得しやすい職場づくりなど、女性が働きやすい環境構築を進めています。

航空灯火・電気技術官

国土交通省航空局



空港の安心、安全を光で守る「光」と「電気」のプロフェッショナル

夜の空港には色とりどりのライトがあつてとてもきれいです。それはもちろん航空機のパイロットが、航空機の離着陸や地上走行を行うために、滑走路の位置や形、地上走行ルートを確認するためのものです。

空港及びその周辺には「航空灯火」と呼ばれるライトが設置されています。航空灯火は、色、光の強さ、配置、配光が国際基準に沿って航空法で決められており、その維持管理（運用・保守）を行っているのが、航空局の職員である航空灯火・電気技術官です。彼ら／彼女らの業務は大きく分けて、航空灯火の維持管理と、航空灯火やレーダー施設などに電力供給する電気施設の維持管理を行う業務があります。

航空灯火や電気施設に異常が発生していないか、正常に稼働しているかを 24 時間 365 日、常時監視し、不具合が発生した際は現場に急行し復旧対応を行います。当然、電気を扱う仕事のため専門的な知識が必要となります。この仕事に就くためには、電気工学の勉強を行い、国家公務員試験の技術系に合

格後、航空局の電気職が在職している官署に採用されるか、又は、電気関連の社会人経験者の選考採用があります。採用後は、航空保安大学校等にて航空灯火・電気技術管理業務研修やOJTなどを通じて、常に知識や技術をスキルアップしながら業務に従事しています。

航空灯火の点検は、航空機の離着陸がない時間帯に空港内で実施しており、緑の下の力持ちのような業務です。滑走路に並ぶ灯火はとても美しく、感動的ですが、その灯火が異常なく点灯しているのを見ると自分の業務が航空機の安全運航に貢献していると実感できる瞬間であり、誇りを感じる瞬間です。

女性職員が少ないながらも活躍中

電気に関する専門的な知識が必要なため、男性が多い職場ですが、令和7年4月には全国で約 210 名のうち 16 名の女性職員が男性と同様に業務を行っています。公務員ゆえ福利厚生制度も充実しており、安心してキャリアを継続し空の安全のため活躍しています。

空港セキュリティスタッフ

羽田エアポートセキュリティー(株)



ターミナルビルの「絶対安全の確立」と「旅客利便の向上」がモットー

羽田空港の第1・第2ターミナルビルを中心に、365日24時間体制で「空港の安全を守る」という揺るぎない使命のもと警備業務を担っています。

空港を利用されるお客様や空港で働くスタッフが安心して過ごせる環境はセキュリティスタッフの献身的な活動によって支えられています。

ターミナルビル内の巡回警備や防災センターでの監視業務はもちろんのこと、お客さまが利用する施設以外の従業員用エリアも含めターミナルビル全館を警備・監視しています。

また、羽田空港の第1・第2・第3ターミナルビルにおいて、ハイジャック、航空機爆破などの不法妨害行為等を未然に防ぐため、制限区域・保安区域に入場する空港関係者、その所持品、搬入物品などに対し、お客様に対するのと同様にX線検査装置、金属探知機といった検査機器による保安検査業務を行っています。

警備業法などの法令に基づいた教育内容と、長年培ってきた実務ノウハウを体系化した訓練プログラムにより、自衛消防技術認定試験、上級救命講習、防災センター要員講習などの資格取得を推進。さらに、施設警備業務検定などの国家資格取得も積極的に支援しています。

また、羽田空港内の各事業者が行う防災訓練やAEDの使用方法等を学ぶ救命講習では講師を担うなど空港全体の安全意識向上に貢献しています。

女性隊員が活躍！

女性隊員は、上記の業務に男性隊員とともに携わるとともに、男性隊員が立ち入れない女性トイレや授乳室などを巡回・点検し、不審者や不審物の早期発見に努めるほか、体調不良のお客さまへのお声がけや応急手当など、女性ならではの気配りときめ細やかなサービスを提供しています。

また、福利厚生制度も充実しており、ライフステージに応じた柔軟な働き方が可能で、長く安心して働ける環境が整っています。

空港案内スタッフ

(一財)成田国際空港振興協会



快適な旅をお客様へ届ける、案内スタッフは、空港の顔

成田国際空港では、1日あたり約11万人以上のお客様が利用しており、その6割以上を外国人旅行者が占めています。空港を訪れる多くの人々にとって心強い存在となっているのが、旅客案内スタッフです。

インフォメーションカウンターでは、施設案内はもちろん、車いすやベビーカーの貸し出し、呼び出し放送など、まさに“日本のおもてなし”の最前線を担っています。さらに、空港ロビーをくまなく巡回し、テレビ電話やタブレットなどのデジタルツールを活用しながら、幅広い案内や相談対応を行っています。

こうしたサービスの質を高めるため、スタッフは日々スキルの向上に努めています。英語はもちろん、多言語対応などの語学力に加え、手話やお手伝いが必要なお客様への介助サービスの資格取得など、知識の研鑽を重ねています。常に最新の情報を取り入れながら、外国人旅行者にも日本人にも頼れる存在として、空港の安心と快適を支えています。

働くひとの“これから”にそっと寄り添える職場です。

成田国際空港振興協会は、成田国際空港株式会社の関連団体として、空港を訪れるすべての方々に安心と快適をお届けすることを大切にし、旅客案内業務をはじめとする様々な事業に取り組んでいます。

職場では、産休・育休の取得と職場復帰が自然と根づいており、時短勤務や休暇取得のしやすさなど、ライフステージに合わせた柔軟な働き方が可能です。女性管理職の比率も着実に高まりつつあり、性別や家庭環境にかかわらず、誰もが安心して働ける環境づくりを進めています。

また、企業主導型保育事業「保育ルームたんぽぽ」の運営を通じて、協会職員だけでなく空港全体の子育て世代を支援し、仕事と育児の両立を支える環境整備にも力を注いでいます。こうした制度と風土のもと、職員の定着率は高く、ライフイベントを経ても長く勤め続けられる職場として、多くのスタッフが空港の第一線で活躍しています。

チャイルド ケア ステーション

ANA ホールディングス株式会社



Child Care Station

いつも頑張っているママ、パパへ
「家族だけで頑張る子育て」から
「みんなで支える子育て」へ

「家族だけで頑張る子育て」から 「みんなで支える子育て」へ

はじめは、長距離乗務がついたものの、コロナ禍でお泊り保育ができず、シッターを探すのに四苦八苦したという同僚の話聞いたことでした。それを聞いて、同じ客室乗務員同士で助け合える仕組みを作れないかと考えました。そうして誕生したのがチャイルドケアステーションです。

2022年にANAグループ内のビジネスコンテストに挑戦したところ最終通過し、2023年9月から実証実験を開始しました。保育のサポーターを募り、研修を受けてもらって登録。保育サポーターを探す社員とのマッチングをする取り組みです。

保育サポーターは、主に現役のANACA、そして最近ではANAエアポートサービス、NRTエアポートサービスのサポーターも誕生し活躍しています。またANAグループのDNAを持った退職者サポーターも増えてきました。継続的に利用できるように料金設定にもこだわりました。

サポートの対象は1歳から15歳までと幅広く、仕事だけでなく、所用やリフレッシュなど一時預かりにも利用してもらい、働くママさんの時間的、精神的な負担が減れば嬉しいとのこと。今後実績を重ね、事業として成立することを目標に日々努力しているスタッフの皆さんです。

「気軽に人に頼ることができる」保育・子育てのシステムはこれから必要な社会の姿

育児はいつも母親の負担が大きくなりがちです。育児休職が終わっても子育てはずっと続きます。子供は大切に育てたい、仕事のキャリアも手放したくないという当たり前の思いに、社会が応えていかなければなりません。

既存のサービスに頼るだけでなく、仲間子育てを助け合う環境を自ら作り出していくという、チャイルドケアステーションの皆さんの行動力と熱い思いに、当協会は深く感銘し、そらあい2025の特別賞を授与します。



あなたと空を学びでつなく
学校法人 神野学園 **中日本航空専門学校**
国土交通大臣指定 航空従事者養成施設
文部科学大臣認定 職業実践専門課程

CNA



ACTYLIESE
We are recruitment professionals.

Actyliese
by CREWNET




トータルコーディネートされたプログラムが就職の
機会拡大と人材の早期戦力化を図ります。

株式会社 A.R.T.
アビオン エアラインスクール

東京 東京都港区元赤坂1-1-15 ニュートヨビル7階
電話 03-6804-6184 FAX 03-6804-6183
E-mail : info@avion-air.com
<http://www.avion-air.com>

大阪 大阪大阪市北区梅田1丁目3-1 大阪駅前第一ビル3階
電話 06-6136-3110 FAX 06-6136-3111

NEW PRODUCT

自由の、その先へ
エアストリームジャパン有限会社
埼玉県新座市大和田 4-15-2
TEL : 048-481-6462 (毎週水曜日・木曜日定休)




公式 HP はこちら

大容量リチウムイオンバッテリー
高効率ソーラー発電
15A 電源供給でもエアコン稼働

Japan Only
Trade Wind™ 25FB
Anniversary Special Model

AIRSTREAM JAPAN

想いをつなぐ仕事

日本と世界、街、人、モノ、想い、
「つなぐ」成田空港



ココロが上がる。
HANEDA



Have a Nice Day
Haneda Nice Day®

HANEDA 



**11年連続
5スターエアポート**

羽田空港は11年連続英国SKYTRAX社の
最高評価である「5スターエアポート」を獲得しました。

日本空港ビルディング株式会社

You can fly now with Japan Biz Aviation

時間という、最高の贅沢を叶える Japan Biz Aviation



2026年 運航開始
Embraer Praetor 600

Japan Biz Aviationは、お客様一人ひとりの夢を実現するプライベートジェットサービスを提供しています。ビジネスシーンでの効率的な移動はもちろん、ご家族や友人との特別な旅行、憧れの地への優雅な旅など、あらゆるシーンで最高のフライト体験をお届けいたします。

▲長距離運航性能に優れ、**東京とアジア主要都市・ホノルル間の直行運航**が可能です。

(2026年第3四半期 運航開始予定)

羽田空港などの主要空港から、▶定期便が就航していない地方空港まで、**国内ほぼすべての空港**をご利用いただけるチャーターサービスのほか、**HondaJetの事業機受託サービス**も提供しております。

HondaJet Elite S



Bell 429 Designer Series



◀ヘリコプター単独での移動や遊覧飛行などのチャーターサービスに加えて、**ビジネスジェットに横付けしてダイレクトに乗り換える**連携プランも提案可能です。

ビジネスジェットによる空港間的高速移動とヘリコプターによる柔軟な移動を組み合わせることで、アクセスが難しい目的地へのスムーズな移動を実現します。



Japan Biz Aviation

株式会社 Japan Biz Aviation

〒144-0041 東京都大田区羽田空港1-8-2-5F ☒info@j-bizavi.com (経営企画部) <https://www.j-bizavi.com>



世界をつなぐ、あたらしい空へ。



ANA Inspiration of JAPAN | A STAR ALLIANCE MEMBER 

www.ana.co.jp



JWAA

Japan Women's Aviation Association

一般社団法人 日本女性航空協会

〒105-0004 東京都港区新橋1-18-1 航空会館8階

<https://www.jwaa.or.jp> Email: sora-ai@jwaa.or.jp

協賛・賛助企業

全日本空輸株式会社

株式会社 Japan Biz Aviation

成田国際空港株式会社

日本空港ビルディング株式会社

学校法人神野学園 中日本航空専門学校

株式会社 A.R.T. アビオン エアラインスクール

ACTYLIESE CREWNET

AIRSTREAM JAPAN 株式会社ノアタウン